

# 教育事業に必要なもの

## <教育理念>

- 主催者が「本当に伝えたいこと」（解決したい社会課題とその解決策） → **存在価値・行動基準**
- 目指す社会変容（学習者の成長により、社会をどう改善、発展、変容させるか） → **成果目標・ビジョン**
- 目指す育成人材像（指針に則り、学習者のどのような成長を目指すか）

## <社会課題・解決法>

- 現在の解決すべき問題点
- 解決するための手段（知識・技術・考え方） → **共有の視座**

## <レディネス（受講条件）・ターゲット>

- この学習に必要な対象諸条件（学習者の現状把握 知識・技能・精神的、文化的レベル、地域的条件など）
- 課題を持つ人の切実な悩み → **社会ニーズ 市場性**
- 理念実現に、最も有効な層(てこの働く層) → **条件・スタートの設定**

## <教育目標>

- 学習者の解決、克服できること（習得できる能力・それにより与えられる役割） → **目標・ゴールの設定**

## <養成カリキュラム>

- 目標達成に向け、心身両面にわたる成長を意図した、総合的な教育計画  
能力＝頭（知的能力）、心（道徳力）、手（技術力）の調和的な発達により、人間性の涵養（かんよう）を図り、その人の持つ能力を伸ばし、社会の発展、改善につなげるため、計画的に働きかけるようデザイン  
（目標達成に必要な教育「内容的分野」(スコープ) × 「時間的順序」(シーケンス) ) → **カリキュラム開発**

## <教育コンテンツ>

- 学習者を目標達成に導くために必要十分なコンテンツ
- 上記をカリキュラムに沿って体系的に編成(プログラム化) ●その分野における標準化 → **教材開発**

## <事業計画>

- 教育理念と事業性を両立する具体的事業計画と目標設定（具体的な数値目標・社会変容目標）  
（受講生・社会の課題が大きければ大きいほど市場価値は高まる。単発講座、イベントとは異なる事業性を理解）

# 資格事業の特徴

## <教育事業である>

教育理念の実現を目指し、教育指針に沿って、一人ひとりを尊重し、その成長を支援する。更に、社会の成長、発展につなげる。

## <かたちが見えない商品—保証する能力・役割の明確化が必要>

教育はかたちが見えない「商品」のため、何が、どのように習得できるのか、それによる克服できる課題は何か、「目標」の明確化が必要。克服できる課題が大きいほど、価値は高まる。教育を受ける場合、そのほとんどが料金前払い。不十分、正確でなければ、クレームに発展する可能性も。また、受講した人の評価、育成した人材が実績となり、ブランドとして「かたち」になる。口コミの影響が大きい。受講検討者は、活躍者の情報に最も関心が高い。

## <信頼が必要>

資格は、「その人がある能力を有することを第三者が認定する」もの。信頼が生命線。認定元（理念、組織体、代表、構成員、安定経営等）、養成講座（カリキュラム、コンテンツ）、講師、監修協力者等によるブランディングが重要。事業継続により、資格者、活躍者が実績となり、信頼を形成する。始めたら、辞めることができない事業。

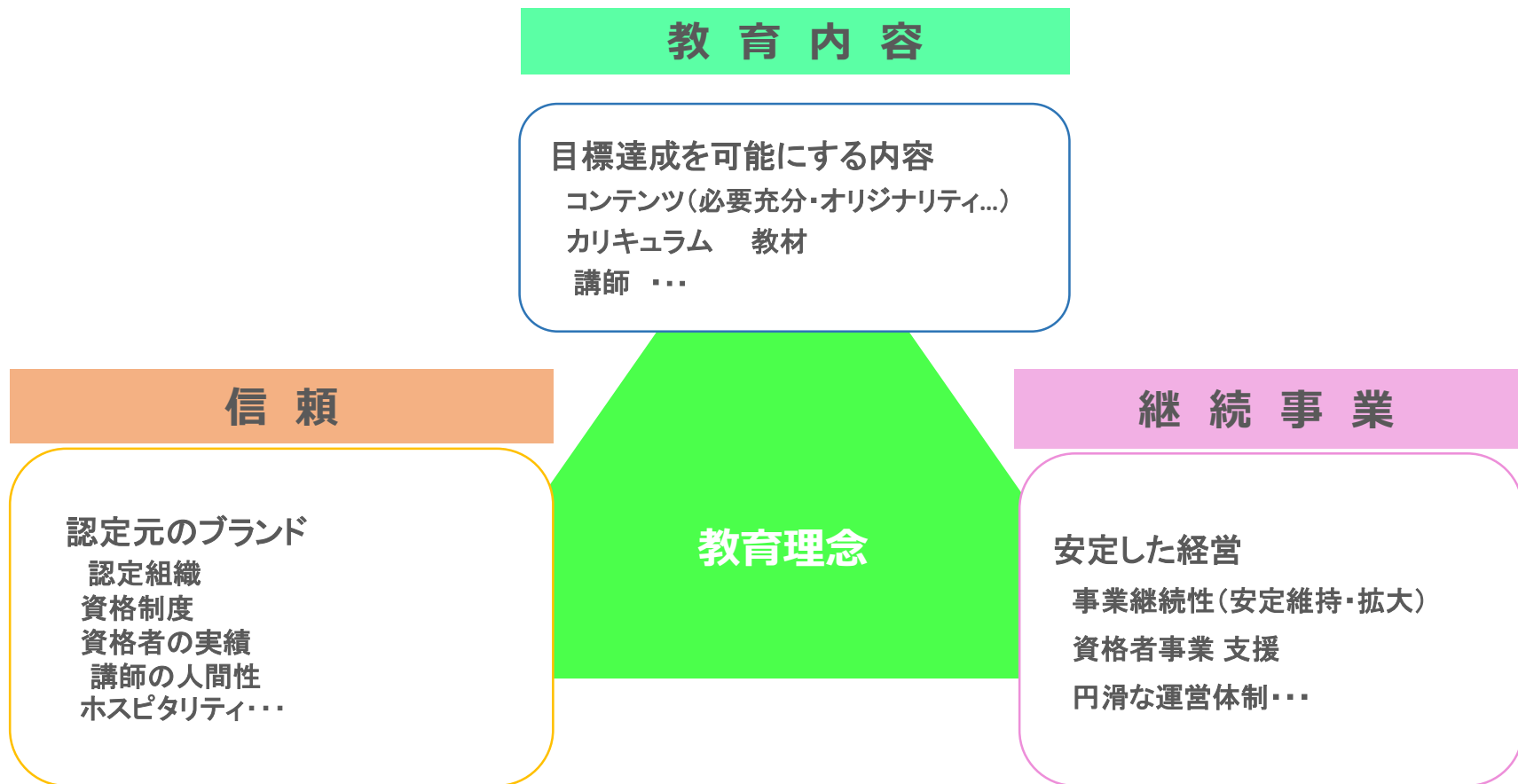
## <受講生はライバルではなく理念を遂行する同士>

受講生同士は、教育理念を一緒に推進する仲間。互いの能力を競い合うのではなく、習得した知恵や技能を、個性を生かし、それぞれの方法で同じ1つの理念を目指す。

## <取得後の支援サービスが必要>

資格者の活躍を支援することが、資格事業者の大きな役割。活動しやすい会員制度、運営の体制作りが必要。コンテンツの提供、広報・事務作業等の後方支援、コミュニティ育成等、資格者が活動しやすい環境を支援することは、結果として理念推進力となり、実績となって、広報費削減等にもつながる。

# 教育事業を支えるもの



ぶれない「教育理念」を軸に、「内容」「信頼」「事業性」の3つの確保が必要